

平成29年度行政評価シート【個表】

平成 29 年 6 月 16 日

評価対象事業		評価者	中央図書館長	菊池 隆
教育-40	実施事業	図書館管理運営事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課 中央図書館
			<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	生涯学習	施策の方針	学習環境の整備・充実

1 事業の目的

対象	市民等
意図	図書館等資料を収集、整理・保存して市民等の利用に供し、市民等の教養、調査、研究及びレクリエーション等に資するため。
効果	市民自らが文化的教養を高め、自己判断力の向上を目指すとともに、調査・研究等に活用されること。

2 平成28年度に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> 効果的な資料収集を図るとともに、市民等のニーズに則した貸出業務、インターネット予約受付などを実施した。 図書館業務に必要な嘱託員の配置と諮問機関としての図書館協議会の運営を図った。 図書館施設の維持管理を行った。
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	27年度決算		28年度決算		データ区分	29年度当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数		人 口	世 帯 数	
人口等のデータ	177,243人	80,676世帯	176,869人	80,928世帯	176,466人	81,150世帯		・各年3月31日 (住民基本台帳)
事業の対象者数								
運営資源状況	決算値(千円)	120,059	130,055	当初予算(千円)	135,222			
	国県支出金			国県支出金				
	地方債			地方債				
	その他	2,747	3,174	その他	3,269			
	一般財源	117,312	126,881	一般財源	131,953			
	人員配置数	22.8	23.8	人員配置数	24.8			
	人件費(千円)	174,798	180,452	人件費(千円)	190,734			
事業運営	総事業費(千円)	294,857	310,507	総事業費(千円)	325,956			
	市民1人当りの経費(円)	1,664	1,756	市民1人当りの経費(円)	1,847			
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)				

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有 効 性	事業の成果は得られているか	3. 十分な成果が出ている
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○. 協働実施済 協働実施済の場合のパートナー ファンタスティック☆ライブラリー実行委員会
事業内容の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す → <input type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →	見直しの種類 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> その他 見直しの内容 準職員的な役割の専門業務嘱託員などを採用し、多様な人材の活用を図っていく。 事業へ統合
予算規模の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 幅広い市民ニーズに応えるため、資料の収集及び各種サービスを充実させるとともに、広告収入や雑誌スポンサー制度等の周知を図り、財源の確保に努める。また、図書館振興基金の活用について検討を行っていく。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	事業費に関しては、所蔵資料の古さ少なさに対する意見も多く、また、本市図書館で所蔵していない資料等については県内・県外図書館からの借用で対応しているため、運搬料も増加傾向にあり、削減の余地は「ない」と考える。 関連・類似団体との統合については、公共施設再編整備計画の中で地域館は拠点校へ統合させるとなっているが、中央図書館は拠点館として機能を充実させていく。 図書館には、平日休日を問わず幅広い年代層の利用があり、開館時間の延長を希望する利用者も少なくない。また、おはなし会や様々な行事を行うことで図書の貸出だけでなく、利用者同士が交流を図れる場所としての機能も果たされている。 協働については、図書館行事であるファンタスティック☆ライブラリーにおいて、市内でボランティア活動を行っている団体等が実行委員会形式で運営を行い、平成29年度で10年目を迎える。	

平成28年度事業実施にあたっての課題(前年度未解決の事項を含む)	耐震診断結果に基づく今後の施設整備の検討を行うとともに、市民が交流できる機能の充実を図る。 ICT技術や情報収集提供等に専門的な知識を持ち、地域の課題に能動的継続的にかかわることができる職員の研修養成に取り組む。 マイナンバーの開始により、図書館システムネットワークについて市内の基幹LANからの切り離しが必要になったことから、図書館独自のネットワークを構築する必要が生じた。 図書館の効率化とサービス向上の観点から、嘱託職員を中心とした体制づくりや開館時間の変更について検討に着手する。	
課題解決のために行った平成28年度の取組	耐震工事及び施設の補修工事を行うため、関係各課との調整を図った。 職員及び嘱託員への研修を行い、図書館システムの操作等について技術の向上を図るよう努めた。 図書館システムネットワークを市内の基幹LANから切り離し、図書館独自のネットワークを構築した。 嘱託職員を中心とした体制づくりを目的とし、専門業務嘱託員の創設について検討を行った。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	耐震工事に向けた具体的な計画について、公共施設再編整備計画の進捗状況を見据えながら進めていく必要があるとともに、引き続き市民が交流できる機能の充実を図る。 図書館の効率化とサービス向上に向けて、嘱託職員を中心とした体制づくりや開館時間の変更について検証作業が必要である。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	月1回の休館									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市	
他市実績	○	月2日 (総合館のみ)	×	×	○	×	×	×	×	
比較事項	宅配サービス									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市	
他市実績	○	×	○	×	○	○	×	○	×	
比較事項										
団体名										
他市実績										
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	より多くの市民等に図書館を利用してもらうため、利用者のニーズに合わせたサービスの充実を図るため。									

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	貸出冊数	単位	冊	指標の傾向		備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31
蔵書の充実を図り、多くの市民に図書館を利用してもらうため。	目標値	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
	実績値	1,382,363	1,411,599	1,349,752			
	達成率	92.2%	94.1%	90.0%			
指標の内容		単位		指標の傾向		備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31
	目標値						
	実績値						
	達成率						
指標の内容		単位		指標の傾向		備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31
	目標値						
	実績値						
	達成率						
当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	新たな図書館システムの導入により蔵書点検の効率化が図られ、平成27年度は前年度に比べ開館日数が増えたため来館者が増えたことに伴い貸出冊数も増えたと思われるが、平成28年度については、大きな要因は考え難いが、インターネットなどによる情報収集の多様化も、減少の要因の一つであるかと考える。						